



## 哲子さん(権現堂)

取材者: 浪江町役場 小島・中川・鴫原

取材日:2月28日

## 人とのお付き合いを大事にして 物づくりを楽しむ日々

浪江町で30年間麻雀荘を経営されていた前田さんは、現在、本宮市の 仮設住宅で暮らしています。朝1時間の散歩を日課とし、クラフトのかご 作りや手織りのショール作りなど新しいことに取り組まれ、毎日を生き生 きと過ごされています。気さくで明るい人柄に自然と友人も増えていらっ しゃるようです。

ことと、借上げに比べて仮設な交通の便から浪江に行きやすい 恵向仮設住宅を選んだのは、

市の恵向仮設住宅で暮らしていごして、平成23年9月より本宮の猪苗代町沼尻温泉で5か月過 翌日から4-てから、 ンターで1 りました。それから2次避難所ンターで1か月の避難生活を送てから、二本松市の杉田住民セ翌日から4日間を津島で過ごし こから、二本松市の杉田住笠日から4日間を津島で過震災当日の夜は浪江中学

やる気が起こります。

少しでも売れると喜びを感じてントがあれば販売しています。夫しながら楽しんで作ってイベ

教えていただき、エラフトのかご作りを

たちにも作りました。 ·もお店を続けていただろうな震災・原発事故がなければ、 そのほかに楽しんでいるのは、

か作り身に着けていますし、孫のショールなど自分の物も何枚のショールなど自分の物も何枚

健康に気を

たい

▲ショールを作っている前田さん

住まいに慣れて落ち着き心の余裕ができた頃に、出来ることをやろうと思い、本宮市のシルバー人材センターの特例会員になって新しい友人ができました。 していただいていま方にもとても親切に きていいと思った。 らです。 ここで 地元 たが

子家族や友人が暮らすいわきや、浪江に戻りたいと思う一方、息ともあり、心は揺れています。の人が帰るのだろうかと思うこ くりをしたりとうまく時間を使っだり、用事で出掛けたり、物づ始まり、ラジオを聞いて楽しん朝早くからの1時間の散歩に 始まり、 今住んでいる本宮にも馴染んで いますが、 きているので迷います。 浪江に帰ろうね。」 たかと思い はそれが 果たしてどれくらい ・ます。 と、 言って

も数を作って将来的に販売するれからもかごの販売やショール と思います。 外に出て行くことは大事だなあ となど楽しい出会いがあって、た人の繋がりと新しく始めたこ 有難さを感じたり、 となど楽しい出会いがあ ての暮らしです。 先々の不安はあ 難さを感じたり、新しくでき、以前のお客様との繋がりのの暮らしです。避難生活の中 ます ヨが、 の中 平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そ

して福島第一原子力発電所の事故により、福島県 内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、 先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのよ うな思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いてい るのか。

こうした町民の思いをつなげるために、"浪江 のこころプロジェクト"が立ち上げられました。 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※) が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さ んが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江の こころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難してい る町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通 してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らし を取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有 しようとするものです。

> ※一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、 東北圏 (7県) の地域コミュニティ再生や協働 のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、 企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ 支援ネットワーク。仙台が本拠地。

#### 「浪江のこころ通信/第34号」への 感想をお寄せください。

【連絡先】〒964-0984 福島県二本松市北トロミ573番地 「浪江のこころ通信」宛 FAX.0243(22)4218











(31)広報なみえ 2014.4.1



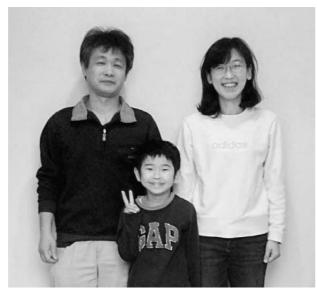
# 佐々木正信さん・優子さん・大輝くん(請戸)

取材者:コミュニティ・ワークス 青木

取材日:3月1日

#### みんなで静岡に越してきました!

東日本大震災後、間もなくつくばに避難してきた佐々 木さんご家族。慣れ親しんだつくばから今年1月に静岡 県に引っ越してきたばかりです。お母さんのキヨ子さん も一緒に新天地での生活が始まりました。フォトビジョ ンから送られるまちの様子に思いを寄せ、これからの復 旧・復興のみちのりを気にかけておられます。



▲4月から4年生になる大輝くんを囲んでニッコリ!

■震災の時、家族はバラバラでした

当時私と息子と母は請戸に住

当時私と息子と母は請戸に住

の日の朝も、私は会社のある楢

葉工業団地への通勤途中に、幼

雑園に通う息子を夜の森にいる

表の両親に預けました。 たったが、もう誰もいなくて、
さんとおばあさんがついている
から大丈夫という安心感だけはありました。
それから私は浪江に向かいましたが、携帯はつながらず、迂

回しながら楢葉の道の駅に上がった時に津波がら楢葉の道の駅に上がった時に津波が見えたので、 信しました。津波が引いた後、 信しました。津波が引いた後、 の山のため先に進めないことを 知り、避難所の浪江町に向かいました。着いて早々玄関先で 上めになり、携帯は相変わらず。 でしたなり、携帯は相変わらずの弟夫婦のいる宇都宮に津島への無事を聞い がやっと宇都宮と連絡がとれた。翌朝 り、私も妻と連絡がとには行けなくなりました。その頃息子は、その消息もつからでしたね。小学校へ入学するために満れて、島子と会えたのは1週間経ってからでしたね。小学校へ入学するがとれて、島子はつくばの小学校に入学しました。

つくばでは市役所の方々に随●つくばではいろんな方にとて

相葉にあった会社は埼玉の岩槻で再稼働したので、つくばから通勤させてもらっていました。ところが今年に入り妻の転勤が静岡に決まり、もうみんなバラバラにはなりたくなかったので、突然でしたけど私は会社を辞め、日も一緒にこちらに来て暮らして、だいぶ慣れてきて友達もできたので長くて、だいぶはやはりサッカーが盛んで、友達と遊んでいます。1月にもかかわらず子どもたちは半袖半ズボンで動きまわっていて驚きましたね。

分相談に乗ってもらいました。 1年位経つ頃、避難している人 たちから「自分たちで情報を発 信したい!」と声が上がり、『元 気つく場会』として、浪江だと 古場さんが中心になって情報を 届けてくれました。他には地元 のお母さんたちと双葉郡の人た ちをつなぐ『ルピナスの会』が 子どもと参加できる交流会を開 いてくれたりして、妻子が参加 したこともありました。

緒に暮らすために

## 佐藤亜由子さん(川添)

取材者:NPO法人市民公益活動パートナーズ 古山

取材日:3月6日

## アンジーとジャックを真ん中に、 大好きな家族がしっかりつながって

震災・原発事故による佐藤さんご家族の避難 の日々と、愛犬たちを浪江町で救出し、大切に 保護したNPO法人アニマルレフュージ関西(以 下、ARK)の活動を通して、愛犬と家族の感 動的な再会が綴られた物語『おかえり!アン ジー」が3月5日、本になりました(集英社み らい文庫 高橋うらら・著)。

あの未曽有の大災害の際にペットを置いたま ま避難せざるを得なかった家族の様子や、ペッ トに対するきちんとしたレスキュー活動を知っ て頂きたいと、亜由子さんは今回の取材を希望 されました。

福島市飯坂町のご自宅を訪ねると、がっしり した体格の大きなアンジーが出迎えてくれまし た。震災後に飼われた猫のジャックも、私を不 思議そうに見ながら「遊ぼうよ」と言わんばか りに、時折可愛いちょっかいを出してくれました。



▲また一緒に暮らせてよかったね。犬 のアンジーと、猫のジャックを抱い た亜由子さん

▲「本を通じて、大災害が 起こった時に家族の一員 であるペットをどう守る

のかを考えたり、ペット や飼い主家族を支援して くださるARKのような 活動も知るきっかけにも して欲しいですね。」

犬たちは

では、大のアンジー、 すぐ帰れるよ」と、犬のアンジー、 すぐ帰れるよ」と、犬のアンジー、 クラリス、シンバは自宅に置いたまま、ケージに入れた猫のジタンと財布、携帯電話だけを持って、車で国道144号を通り津 高へ向かい、体育館に3日間、 高に向けて山を下ると、犬のアンジー、 4月末に同じ飯坂町内のアパートに移り、長女は地元の中学に3日間に大たちの安否を確かめ、長女は地元の中学に、 15日に夫が帰宅した。 とが分かりました。 大阪府能勢町で暮らしていました。 と連絡を取って犬たちの安否を確かめ、出来るだけの世話をしていました。 4月末に同じ飯坂町内のアパートに移り、長女は地元の中学に3日に夫が帰宅し、一本松のサテライト高に通うことにもか分かりました。 大阪府能勢町で暮らしていました。 とが分かりました。 私もAR に大たちのました。 私もAR にないる。 私もAR にないる。 私もAR にないる。 本のご支援の確かさを くが、3 A お 月は 新 · R 預 ド か たにくは 

心の支えに、犬たちの今後につれて何度も家族で話し合いました。オーストラリアン・シェパーに、飼い方が難しい犬でしたので引き取る決心をし、に、飼い方が難しい犬でしたのがられていて、この家に帰ってもりないのです。とないのです。ともう離れたちは原発事故のです。と思います。でも付良して共に過ごし、テンジーは原発事故の影響である。私たちは「本当に大丈夫」とがいるところが、ふるさとです。私たちは、今とても幸せである。私たちは、今とても幸せである。私たちは、今とても幸せである。といるないと思いますが、私にとっては決しては戻らないと思いますが、私にとってもは、今とても幸せでもある。私たちは、今とても幸せでもある。本とは、大きな、本のも、アンジーがいるところが、ふるさとです。とは、おいるところが、ふるさとです。本とでもある。私たちは、今とても幸せでもある。本とは、大きないと思いますが、私にとっては、今とても幸せでもある。本とないますが、私にとっては、今とても幸せで

(32)(33)広報なみえ 2014.4.1



## 英謙さん(権現堂)

私たちが営む冠婚葬祭場は現在、自宅を臨時事務所としています。

通うのに便利な福島市に移り、プの仕事を再開したため、私

私も

父も長兄も浪江町で朝田グル

取材者: N P O法人市民公益活動パートナーズ 古山

取材日:3月6日

#### 故郷再生は、我々青年の使命です

朝田英謙さんの妻、麻美さんは震災当年の「浪江のこ ころ通信 第4号 (広報なみえ2011年10月号)」に登場 され、震災当時や新潟に避難された頃のご様子を伝えて くださいました。その取材から2年半後、今度は夫、英 謙さんにその後のお暮らしや、今、力を注いでいる地域 活動のお話しなどをお伺いしました。

プロジェクト」
たちの成長を祈る「鯉のたちの成長を祈る「鯉の 今年もまもなく開催です のぼり

浪江町は帰宅困難地域と居住

い業務再開を願って ていましたが、私も一日もが出来ず、母はとても悔し います。

ぎ始める4月2日には、JCI小学校に、運動会の日まで飾り小学校に、運動会の日まで飾り 理解と賛同な まで役場と6 つ月 フの小中学校※2。月25日~5月6日 6 日



▲昨年の鯉のぼりプロジェクト」のひとコマ(二本松市浪江小学校



踏み出しましたれる。■新潟から福島書

市

一へ。

に分かれてしまい、事歴難指示解除準備区

しました

▲福島市のご自宅にて

は第2子が誕生し、家りました。昨年10月にいた妻は無事に出産し、 は昨年暮に私が、 福島市笹谷のこの家に 族は4人になりました。 震災当 妊娠して

入居しました。 子どもたちはやや遅れ 妻と した。 Ј С

に「原点回起」を目指さなくて はなりません。この災害を乗り はなりません。この災害を乗り がな郷・浪江の再生へ の取り組みは、我々青年の使命 であり、仕事だと思うのです。 社団法人浪江青年会議所(以下、ています。今年1月、私は一般ないことを大変もどかしく思っ業や地域運動が自由に展開でき 制限区域、避難的 域の3つに分かれ でいことを大変な が立ます。今年1 として、 を今年も開催します。復興へのくしま鯉のぼりプロジェクト\*\*」 にもあるように、 そうい JCI浪江のスローガン浪江)の理事長になりま 、昨年から始まった「ふいった運動の一つの発信 」を目指さなくて に、これからまさ 浪江のスローガン 般 つき

> たちの歓声や笑顔を想い出してがら、故郷やそこに遊ぶ子ども ください 1 2013年4月、福島大学災害復東研究所やふくしま復興塾、伊達市職会、JCI浪江等が呼びかけ人となり、全国に福島への応援メッセージと共に鯉のぼりを送って貰うプロジェクト。

周年式典も行われます 浪江の設立記念日に合わせて の空に泳ぐ鯉のぼり どうぞ、 を見な って

れることは健康のバでいなきゃならない てきた。という感じが 分のふるさとではない

そ払うこう。だからこと思って見たりして。だからことあってないかな?なんか見ると載ってないかな? 間を思い出しては、みんな頑張っとを聞くと、昔一緒に働いた仲 私よりも若くして亡くなったこ浪江にいた頃の同じ職場の人が そ私も元気で ているのか、 避難して3年経ちますけど、 元気でいるのかと、

そこはもう一回出てみたい。 ~5日朝走って、 残念です。

さとになりそうです。 浪江もふるさとだったんですけれど、羽馬山や庄内平野の景観とか、遠黒山や庄内平野の景観とか、遠とになりですが、 で余計に素敵に感じま にも一人で行けるようになり 昨年位から大分良くなり買い だ本調子とはいかないけれども、 浪江

それからひと汗流してごはんを 食べるのが日課。年間10本位、 食べるのが日課。年間10本位、 す。浪江にいる頃も地元のコス ちました。10年以上前かな、10 りました。今までに走ったコー スで印象的なのは、三春の滝桜 とダムのコースかな。樹木が立 とダムのコースかな。樹木が立 普段は週に4

で懇意に

ただい

ま物

らっしにしてい

か、東京や埼いただいた

ましたね。でもこれから除染ででした。すごく癒され、救われ面に敷き詰められとっても綺麗 てしまうと思うと、 芝生や庭の土も全部堀り返され のなんとも言えない青色が、一ンツツジの紅葉の赤とリンドウ

▲清子さんが作られた木目込み人形と一緒に

なかったの。 体調がすごく悪くて一人で歩け ここに避難して 元気になります~清子さん~顔なじみのみなさんに会うと 位は、

て外出に不安がありました。 もともと大病をし ま

一興さん・清子さん(権現堂)

取材者:コミュニティ・ワークス 青木 取材日:3月6日

## ふるさと浪江を思いつつ

横浜に避難で帰ってきたのは30年ぶりとの こと。前にいた時からの顔なじみで同年代のご 近所の方々がいて、日々の暮らしを楽しく元気 に過ごされている竹田さんご夫妻。近くに住む お子さんとも連絡をとりあい、お孫さんの健や かな成長を楽しみにしておられます。

結婚して10年間暮らして

いまし

が住んでいて、

私もここにいて

震災後6~

7日目。

この家は母

家内と一緒に横浜へ来たのは、1浪江と横浜の自然に癒されて

校低学年まで、 す。「浪江に行きたい!」ようで楽しみにしていたよ 子どもたちにとって田舎に帰る たり嫁にいったり。 こちらの大学を卒業し、就職,で浪江に移って高校までいて、 子どもたちは幼稚園と小学 竹れていましたが、中の一時帰宅の時、日います。 その後私の転勤 浪江の家は、 いたようで 就職し つ

ドウダ

いのに "帰っました。 自っているの